

和太鼓アンサンブル TOKARA – プロフィール

和太鼓アンサンブル TOKARA は、2004 年 3 月 7 日、和太鼓の厳しい心体の鍛錬を通して、更に新しいものの追求を目的に結成された。その後、3 年の間に TOKARA は、日本国内外で活躍、影響力を発揮し始めている。

結成後、2004 年春、6 週間の北米大陸横断ツアーで、国際デビューを果たし、翌年 2005 年には約二倍のステージをこなす 2 ヶ月に及ぶツアーを決行。観衆を魅了、大成功を収めている。

その後、浜名湖花博や台湾台北市 120 年記念民族音楽祭、EXPO 愛地球博など、TOKARA は国内外のイベントで中心となるグループとして演奏活動を続けている。

この TOKARA のステージは中国武術、舞踊の流れるような曲線的動作を取り入れた独自の振り付けのみならず、その驚異的なスピードとパワーで、大評判となる。

TOKARA 独自のステージをより発展させるため、常に新しい楽曲、プレースタイルを探求し、和太鼓に世界の様々なリズムを融合させ、全く斬新なパフォーマンスを創り上げる努力を怠まない。一方で、伝統的な和太鼓の楽曲の追求にも努め、日本各地に伝わる伝統曲の習得に励み TOKARA 流に編曲し演奏している。

TOKARA – The Name

TOKARA とは、文字通り“遠くから”と言う意味です。

この“遠く”には主に二つの意味を込めています。

一つは、“過去”の遠くからと言う意味です。メンバー全員は、異なった国、文化で生まれ、それぞれが別々の人生の経験をしてきました。そして TOKARA と出逢い、和太鼓の“鼓道”に精進すべく、終結しました。

“過去”とは初期、基本や伝統といった意味も含みます。人は、どんなに高い地位になっても初心のころを絶対に忘れていけないはずです。TOKARA は、独創的な曲に加えて和太鼓世界に伝わる伝統的な曲の習得にも努めて取り組んでいます。

二つ目の意味は“未来に向かって”遠くまでとなります。たとえ 100 年学びに励んでも、勉強することはまだ沢山あると思います。TOKARA メンバーは、“鼓道”を通し和太鼓だけではなく、人生のさまざまな面に対し最大限の尊敬や謙虚の気持ちを持って接し、現在より成長するために励んでいきます。

TOKARA にあてた“遙”の漢字は、日本語で“はるか”と中国語で“ヨウ”と発音します。

“遠くから”と“遠方”の意味を含めています。この漢字は、TOKARA の第一回台湾ツアーの時、ツアーディレクターによりグループに送られました。

TOKARA 案内

代表: アート・リー

TEL/FAX: 0265-59-8768

E メール: contact@tokara.net

住所: 〒395-0813 長野県飯田市毛賀 831-1

ホームページ: www.tokara.net

メンバー数: 4 人

TOKARA 事務所・練習道場: 長野県阿智村・飯田市

TOKARA メンバー

アート・リー

1993年、アメリカ、カリフォルニア州にて和太鼓を初める。1994年、鬼太鼓座（おんでこざ）に入団、全日本ツアー、ニューヨーク・カーネギーホールにて演奏する。

日本政府より和太鼓アーティストとして、芸術ビザを取得、日本滞在・活動を初めて許可され、2001年11月より日本にて和太鼓指導、和太鼓プロ活動を開始。2002年、北京世界音楽祭をはじめ、日本国内のみならず、海外でもイベントやコンサートにて作曲、企画等を担当。現在は地元太鼓グループへの指導の他、自らがリーダー、アーティストックディレクターを務める和太鼓アンサンブル TOKARA を運営。

2005年、最も権威ある東京国際和太鼓コンテストにおいて大太鼓部門最優秀賞を受賞。他過去に全日本和太鼓コンテスト特別賞、熊本城大太鼓打ちコンテスト特別賞など多数受賞。毎年、日本各地・アメリカ・カナダ・ヨーロッパ・アジアにてコンサートや指導を行っている。自らの和太鼓活動の傍ら、アフリカ伝統打楽器（タムタム）、韓国打楽器（サムルノリ）など世界の民族音楽を学び習得に励んでいる。また、日本伝統のしきたりと音楽の理解を深めるため、御諏訪太鼓宗家小口大八のもと、同グループの演奏活動にも参加している。

和太鼓の鍛錬を通し、彼の演奏では、大太鼓のソロ奏者として、また、横面打ちの曲で披露されるその独特のソロパフォーマンスに定評がある。

又最近では、他に類をみない彼独自の音楽観や、想像の世界から創り出される楽曲が注目されている。

玉置 はるみ

出身地である長野県阿智村の恋姫太鼓のメンバーとして、アート・リーの指導の元、2003年5月和太鼓を始める。 TOKARA 結成からのメンバー。 グループと共に国内はもとより海外でも演奏活動に励んでいる。

彼女の明るさと笑顔は、観るものを幸せな気分になせ、特に自身のお気に入り“波頭の響き”で観客を楽しませる。

マット・スタイル

2003年より和太鼓を始める。和太鼓の経験は少ないながら過去10年間マーチングバンドリーダーとして音楽活動をしていた彼は TOKARA に無くてはならない存在となっている。 TOKARA 結成からのメンバー。

現在、アートと共に、北アメリカを拠点に活動を予定している TOKARA U.S の立上げに向け、奮闘中。

市瀬 ゆかり

TOKARA 結成当時から、衣装担当スタッフとして活動に携わる。

2005年、アート・リー初心者コース「天土」のメンバーとして、太鼓を始める。研修生として、2006年 TOKARA に加わる。

原 邦晴

1998年長野県岡谷市の御諏訪太鼓のメンバーとして和太鼓に出逢う。

以来、演奏活動の他、太鼓製作の技術習得に努める。

2005年、独立を期に「はら太鼓店」を開業。と同時に TOKARA に準メンバーとして加わる。演奏活動の傍ら、太鼓作りに忙しい日々を送っている。

TOKARA REPERTOIRE

Nagisa Monogatari – 渚物語

Original

この和太鼓アンサンブルTOKARAの新しいオープニング曲は、浜の砂に座り 目前に見る海の移りゆく様を表現した物語です。

深夜の静寂にはじまり 朝 陽がのぼり 時が流れ出す。波が打ち寄せ 日の光は大地を熱くし、生き物が動き 戯れ 賑やかな声。夕暮れ 行き物が眠りにつき また夜の静けさが戻る…

Yatai Bayashi – 屋台囃子

traditional/arranged by TOKARA

神社の 祭礼の山車などで奏する囃子。

埼玉県西部の秩父市に伝わるものを TOKARA 流にアレンジした曲。

Kandou – 間道

Original

間道とは、ハイウェイの道と道との間にある空間のこと。

一見、忙しく走る車の中では目も向けることもない場所。忙しさにまぎれて、いつもは気づくことの出来ない、落ちついた静かなところ。それは疾走する生活の中にも必ずどこかにある。決して忘れてはならない、なくてはならない大切な場所。

この曲は、再構成され、学校公演や祭りでの演奏の定番曲の1つとなっている。

Buchiawase – ぶち合わせ

traditional/arranged by TOKARA

東京の南、三浦半島。 漁業の大漁を祈り打ち鳴らされる曲。一つの太鼓が三崎の山の上で太鼓を打てば、他方の太鼓が別の山の上で太鼓を打ち鳴らす。

二手の太鼓打ちが、互いの山から山への太鼓の打ち合い。ぶちあわせは、その力強く攻撃的な太鼓のスタイルから別名“けんか太鼓”とも呼ばれている。

Miyake Daiko – 三宅太鼓

traditional/arranged by TOKARA

東京の南、三宅島に伝わる曲。

大海を流れてきた水が島をなで、少しずつなみ立ち、島を離れるにつれ、風や岩々にあたり、“波”となる。それは、本州の街が見えるころには、ますます勢いを増し、うねり、力強く陸にあたり砕けていく。そんな“波”の旅をイメージし、TOKARA がアレンジした曲。

SANSAI

****Original****

火事、洪水、嵐

私達は、その恐怖、混乱、大惨事を知っている。これらは全て災い...三つの災い...三災。嵐は意図的思慮のもとに人々にそれを予知する間も与えず突然、天を打ち裂く。

空をかきむしり、その思うがままに、土地を侵食し形をかえさせる。稲妻は悪魔のように、雲をはいまわり、地上に向け大火を呼び起さんとばかり、激しく炎を吐く。雨は天から真っすぐに落ち、止まることのない攻撃の如く打ち続く。風は宣戦を叫び、海を狂わせ鳴うねり、凄まじい力でこの争いに参戦する。彼らはその威力の優劣を争い、かつ共に存在しあう。そしてそれらはまるで蠟燭のように激しく燃え盛り、突然消え去る。

Hatou no Hibiki – 波頭の響き

****Original/Group Signature Piece****

和太鼓アンサンブル TOKARA テーマ曲。

浜辺を歩き、海や鳥の声を聞き、飼いなれたあなたの犬がじゃれついてくる…そんなひと時を、誰が楽しまないと言うのでしょうか？その浜辺に、打ち寄せる波。その美しく寄せてはかえず波の穏やかさ一ではなくその底で、小石と小石が、砂と砂が波にもまれ、磨れ合いぶつかり合い、とても小さなでも複雑な音を奏でている。小さな世界のその様子を表現した曲。まるでそれは、人々が触れ合い踊り合い、音を楽しみパーティを開いているかのよう。

そしてこの曲を聴くあなたも、このパーティの一員なのです。

EXISTENSION

****Original/ODAIKO Solo****

エグジステンションは“存在”「existence」と“人間として発展、改良し伸ばす”「extension」をつなげた造語です。肌の色や国籍にかまわず、世界の人間に一番必要な基本は、続くことです。しかし、存在するだけでは足りません。人間的にも精神的にも成長し、発展しなければなりません。人類の究極のゴールは、私たち自身を改良することであるにちがいません。人間の存在を改良する…

エグジステンション

Kagiri – 火霧

****Original****

火霧は、いつも私達の周りにあります。

火霧とは空気中に浮遊する人間に力を与える原子のことです。

それは、私達の演奏を熱くします。私達の強さに火をつけ、集中力を持続させます。

私達に進み続けることを強要し、決してあきらめることをよしとしません。

私達の力を増大させ、自信を与えます。私達のハートに火をつけ、私達をおどらせます。

火霧はいつも私達の周りにあります。

Tonbane Daiko – 飛跳太鼓

Arranged by TOKARA

“とんばね”は最近出来上がった曲ですが、この曲はよく知られている“勇駒”という曲と同じ曲調で作られています。小口大八によって作曲され、彼の太鼓グループ御諏訪太鼓をはじめ全国各地多数の太鼓グループによって演奏されています。この二つの曲は、同時に演奏される機会も多くあります。

TOKARA がアメリカツアーに出た際、光栄にも私達のステージでも演奏するよう依頼を受けました。それ以来、学校などで演奏しています。
身体の動きと振り、力強い太鼓の音が魅力です。

Mizukagami

2006年に創作した新曲3曲の中の一つ。締め太鼓による楽曲。左右対称に座るそれぞれの奏者が、同じリズムと動きで、水面に映る水の滴りを表現する。

SVA

和太鼓アンサンブル TOKARA とインド舞踊グループ「ラガマラ」による合作。

日本の太鼓とインドの踊り、異なる文化に生まれた二つの芸術形態のコラボレーション。躍動的な打楽器の響きに切れ味鋭い太鼓打ちの動きと、複雑なインドのリズムとダンサーの正確な動きとの対話である。

SVA は、二つの異なる文化形態と、それらの生まれた其々の精神理解や伝統の類似を探る機会でもある。共演する優雅な篠笛の音色とインド伝統の笛カーナティックの調べは、太鼓の力強さを際立たせる。

Asahi

大太鼓ソロ曲。

2005年、東京国際和太鼓コンテストにおいて優勝した際の自由曲タイトル。

ステージ中央に丸く浮かび上がる大太鼓は、瞬く星と宇宙の闇に包まれた太陽のように思えます。静かに渦巻くガスが激しく爆発するまでの、太陽の炎の周期をイメージして創った曲です。